

第2学年 道徳科（食育）学習指導案

指導者 担任教諭（T1） 学級担任
栄養教諭（T2） 栄養教諭

1 主題名 いろいろな国のようす 低学年C16【国際理解，国際親善】

2 資料名 「韓国とインドの食文化」（自作資料）
「行ってみたいな」（「みんなの道徳」学研）

3 主題設定の理由

- 本主題は，他国の人々や文化に親しむことをねらいとしている。低学年の段階においては，身の回りの事物が自国の文化なのか他国の文化なのかを明確に区別することは難しく，他国の人々や他国の文化に親しむ機会が多くはないという実態がある。特に他国の人々に対しての触れ合いについては，消極的になってしまう児童もいる。これを受けて，本主題は，食文化の面からいろいろな国のようすについて知り，他国の文化に親しむことの大切さを学習するものである。2020年の東京オリンピック開催が目前に迫り，諸外国の方をたくさん招き入れるオリンピックは，絶好の異文化交流の機会となる。国際的な協調が不可欠となった現代，異なった文化をもつ人々と共に生きるための資質能力の育成が求められている。他国の文化との共通点や相違点を受容し，尊重していく態度を育てるためには，我が国の歴史や伝統文化などについて，理解を深めることも大切な要件である。このような状況を踏まえ，他国の食文化から共通点や相違点に気付かせていきたい。また，外国料理がテーマの給食をきっかけに，いろいろな国の様子や文化について知り，自分だったら日本をどのように紹介するかを考えさせることで，他国の人々や文化を尊重し，共生する素地を養っていきたい。
- 本校ではアジア太平洋こども会議・イン福岡の交流はあるものの，本学級の子どもたちとの接点はあまりない。事前アンケートでは，「世界の国の名前を知っていますか。」の問いに対して，15か国以上知っている児童が半数を占めている。また，「世界の国のことでどんなことを知っていますか。」の問いに対して，8割の児童が知らないと答えている。国の名前はよく知っている一方，その国の様子や文化，人々等について知っている児童が少ない。給食でも世界各国の料理が登場しており，校内放送や栄養教諭から紹介を受けているが，「世界の食べ物について書いてみましょう。」の問いに対して，3割の児童が知らないと答えており，記憶に残っているとは言い難い。そこで，他国について興味はあるものの，知識や経験が少ないこの時期に本主題を取り上げたい。そして，食文化をきっかけに，他国の様子や文化を知り，親しむことの大切さに気付かせていきたい。このことは，他国や我が国のそれぞれのよさに気付く子どもを育てる意味でも意義深い。
- 本資料1「韓国とインドの食文化」は，韓国とインドの食事の様子の写真やその国の方が話す食文化の紹介で構成されている。食文化はその国の風土や気候，産業，宗教や歴史などに裏付けされたものであり，他国を理解するうえで有意義である。また，「食」は児童にとって，身近で受け入れやすく，興味をもって意欲的に学ぶことができる。資料を通して，日本と違う食事内容や食文化に触れ，共通点や相違点に気付くことができる資料を通して興味をもち，資料2「行ってみたいな」につなぐ。資料2「行ってみたいな」は給食のインド料理を食べた主人公が，いろいろな国のことを知るために訪れた国際交流フェスティバルで，他国の子どもたちの話を聞いたり，日本の話をしたりして交流し，他国に「行ってみたいな」と思うようになる話である。本時指導に当たっては，よく知らない他国の文化や人々の様子などに対して，共通点や相違点に気づきながら，それぞれの文化を尊重し，親しんでいくことの大切さに気付かせるために，

食文化の共通点や相違点が明確な資料や他国の文化や人々との交流をきっかけに、他国への思いが膨らむ資料を通して、栄養教諭と連携した資料提示や話し合いを取り入れて、学習を進めていきたい。まず、導入では、本時学習に問題意識をもたせるために、事前アンケートの結果を提示し、他国の名前を知っているが他国の様子や文化等を知らないことに気付かせ、めあてにつないでいく。展開前段では、他国の食文化に興味をもたせるために、韓国とインドの食事の様子や食事内容の写真を提示し、共通点や相違点を交流する。食文化については、栄養教諭がGTとして登場し、紹介する。展開後段では、自国の文化の尊さや自国の文化は他国との関わりの中で変化していくことに気付かせるために、資料2をもとに自国の食文化の紹介を行う。そして、食文化以外の文化にも触れ、他国への興味を高めていくために、他国のことを知り思ったことを交流し、価値に迫っていく。終末では、他国を尊重し親しんでいくことの大切さを再認識させるために、栄養教諭が給食に登場する他国のメニューや日本に定着した他国ルーツのメニューなどについての説話をを行い、授業を閉じる。

4 ねらい

日本とは異なる食文化があることを知り、親しもうとする心情を育てる。

5 食育の視点

- 食文化の違いを認め合い、食事を共に楽しむこと。(社会性)
- 世界には、日本と異なる種類やマナーの食事があること。(食文化)

6 準備

指導者：韓国の衣装と名札、インドの衣装と名札、学習プリント

児童：筆記用具、教科書

7 本時

10月2日(水) 6時間目 2年1組教室

8 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
導入 (3分)	1 アンケート結果から自分たちの実態を知り、めあてをつかむ(T1)	○めあてにつなぐために、アンケート結果を見せ、世界や日本について詳しく知らない人が多いことに気付かせる。
せかいのくについて知ろう。		
展開前段 (20分)	2 資料「韓国とインドの食事」をもとに話し合う。(T1.2) (1) 韓国の食事の写真をもとに、話し合う。(T1) ・食器やおはしが銀色。 ・おかずがたくさんある。 ・足を立てて食べる。 (2) 韓国のソヨンさんの話を聞いて交流する。(T2) ・日本でもキムチや焼き肉、ピビンバを食べる。	○食事の写真ではとらえられないことに気付かせるために韓国の人(T2)の話につなげる。 ○韓国の食事が日本の食事と似ているところ、マナーの違いや考え方の違いがあることが分かるように韓国の人(T2)が自分の食事について

	<ul style="list-style-type: none"> • 韓国は食器を持って食べないなんてびっくりだ。 <p>(3) インドの食事の写真をもとに話し合う。(T1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ご飯を手で食べている。 • 日本もカレーを食べる。 <p>(4) インドのカイラさん話を聞いて交流する。(T2)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 右手しか使ってはいけないのは不思議だ。 • 肉や魚を食べない人もいるなんてびっくりした。 	<p>話をする。</p> <p>○食事の写真ではとらえられないことに気付かせるためにインドの人(T2)の話につなげる。</p> <p>○日本も外国から見ると驚かれることが分かるようにインドの人(T2)が自分の食事について話をする。</p>
展開後段 (20分)	<p>3 資料「行ってみたいな」をもとに話し合う。(T1)</p> <p>(1) 「行ってみたいな」の主人公が国際フェスティバルに参加して、自分だったらどのように日本を紹介するか考え、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本にはお寿司やラーメンがある。 • 日本の給食には外国の料理が出る。 <p>(2) いろいろな国のことを知ってどう思ったか考え、交流する。(T1)</p> <ul style="list-style-type: none"> • ○○を食べてみたいと思った。 • ○○にびっくりした。 • ○○に行ってみたいと思った。 	<p>○担任は「行ってみたいな」を朗読する。</p> <p>○自国の理解を深めるために、自国の食や文化について考えさせる。</p> <p>○他国への興味を高めるために、他国のことを知り思ったことを交流させる。</p>
終末 (2分)	<p>4 教師の説話を聞く。(T2)</p>	<p>○他国を尊重し親しんでいくことの大切さを再認識するために、給食に登場する他国の料理などについて説話を行う。</p>

9 板書計画

「行ってみたいいな」

「同じところ」
・おはし
・ごはん
・カレーを
たべる

「同じところ」
・ごはん
・カレーを
たべる

「ちがうところ」
・おさののいろ
・りょうりのかず
・はしのはし

「ちがうところ」
・手で食べる
・カレーの種類・色

「カレーと」
「ピザの写真」
「ピザの斜塔
の写真」
「コアラの
写真」
「カンガルー
の写真」

「インドの
料理の
写真」

「韓国の
料理の
写真」

「食事をして
いる様子の
写真」

「食事をして
いる様子の
写真」

「わたしはおすしが好きです。」
「日本もカレーをよくたべています。」
「日本はいろいろなりょうりがあります。」
「おすすめはラーメンです。」

「すでたべるのがびっくりした。」
「日本とちがっておもしろい。」
「いろいろなくにもっとしりりたい。」
「いろいろなくにいてみたいと思った。」

「せかいのくにいて知ろう。」

「せかいのくにいて知ろう。」

「いろいろだ。せかいのくにを知り、どう思いましたか？」

「いろいろだ。せかいのくにを知り、どう思いましたか？」

「いろいろだ。せかいのくにを知り、どう思いましたか？」

「いろいろだ。せかいのくにを知り、どう思いましたか？」

10 資料「韓国とインドの食文化」

① 韓国

私は韓国のソヨンです。韓国は日本のすぐ隣の国です。韓国の食事は、ご飯と汁物とおかずをいくつか組み合わせます。いつも色とりどりのたくさんのおかずを並べて食べます。特別な日じゃなくても、いつもこうです。しょうゆやみそ、漬物もあります。韓国の漬物「キムチ」にはたくさんの種類があって辛いものもあるんですよ。食べたことはありますか？食器やはしは金属で出来ていて、スプーンも必ず一緒に並べます。食べる時は、こうやってひざを立てて座るのが正しい姿勢です。食器を持つのはとても行儀が悪いので、必ず机に置いたまま、ご飯をスプーンですくって汁に浸して食べます。日本で人気の焼肉やビビンバも韓国の料理です。好きな人いますか？

② インド

私はインドのカイラです。インドは日本よりすごく大きな国で、1年中とても暑いんです。ごはんもパンも食べますが、肉や魚などの生き物は食べません。だから、豆やいもや野菜ばかりの食事です。スプーンやはしは使いません。右手だけをつかって直接つかんで食べます。左手は絶対に使ってはいけないんです。日本で食べられているカレーはもともとインドの料理ですが、スパイスを混ぜ合わせて味付けした煮物料理のことなので、毎日3食ずっとカレーを食べることもあります。

私は、日本に来たときびっくりしたことがあります。まず、魚や卵を生そのまま食べていたこと。生で食べるなんて考えられません。それから、なんと真っ黒な紙を食べていました。「の・り」と言うらしいです。日本は変わっていると思ったけど、日本のみなさんと仲良くなって日本のことをたくさん教えてもらって、どれもおいしい食べものだという事が分かりました。だからきっと、他の国にも私の知らないおいしい食べものがたくさんあるんだろうなと思いました。